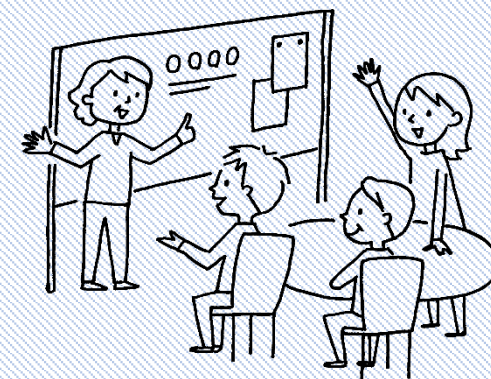


第2次橋本市長期総合計画策定にかかる まちの未来を考える高校生ワークショップ 結果報告書



1. はじめに

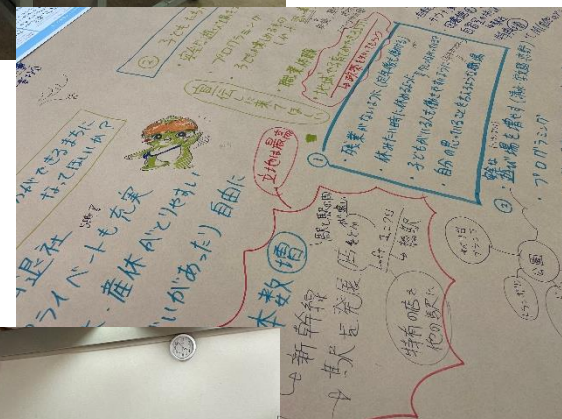
ワークショップの目的

橋本市では現在、今後5年間のまちの方向性を定める「第2次橋本市長期総合計画 後期基本計画」の策定を進めています。今後も活気ある橋本市を維持していくためには若い方のまちづくりへの参画が不可欠である一方、ベッドタウンとしての特性を有する橋本市は、若い方が進学や就職を機として市外に出て行ってしまふことが大きな課題となっています。

以上の課題を解決するためのヒントをいただき、策定中の総合計画に反映させるために、今から5年後に社会に出ていく、または社会で活躍し始める市内の高校生に集まっていただき、「若い方が橋本市に住み続ける、または橋本市に戻ってきてもらうためにはどうすればよいか？」というテーマについて話し合う場として、ワークショップを開催しました。

ワークショップの手法

今回のワークショップは、「ワールド・カフェ」と呼ばれる手法で実施しました。カフェのように、気軽に話せる雰囲気の中で、より多くの参加者同士で語りあうための方法です。



2. ワークショップの全体像

**いまから5年後、橋本市がどのようなになっていたら
住み続けたい・戻ってきたい？**

今回のワークショップでは、上記のテーマについて、以下の3つの視点から語りあっていただきました。

どのような働き方ができるまちになってほしいか？

「〇〇の仕事がしたい」「〇〇な場所で働いてみたい」「〇〇時には帰りたい」など、橋本市で希望する働き方について、ご意見をいただきました。

どんなことを学べる・体験できるまちになってほしいか？

「〇〇の勉強ができる」「〇〇の体験ができる」「〇〇な遊び場がある」など、橋本市だからこそできる学びや体験の希望について、ご意見をいただきました。

橋本市のよさを多くの人に伝えるために、どうすればよいか？

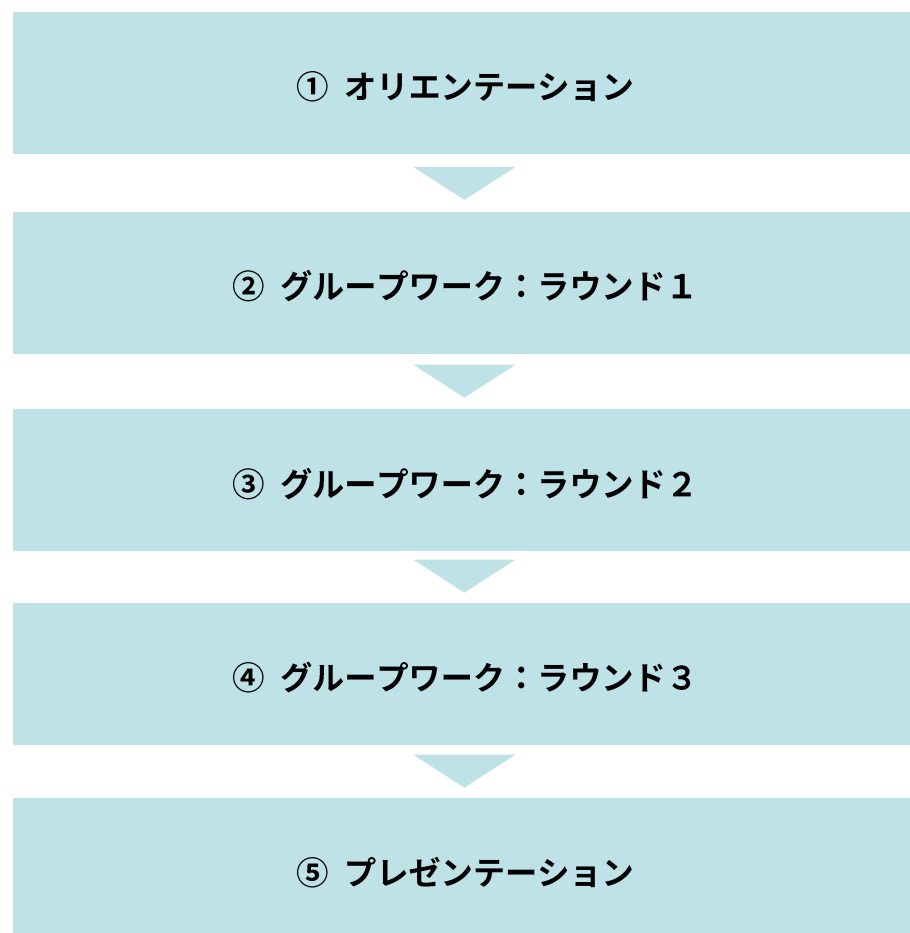
「〇〇をもっと活用する」「〇〇さんを広報大使に」「〇〇をアピール」など、橋本市の魅力が市外に出て行っても伝わるような方法について、ご意見をいただきました。



3. ワークショップのプログラム

ワークショップは以下のプロセスとプログラムで実施しました。

ワークショップのプロセス



プログラム概要

プログラムの概要は以下の通りです。

- ① **オリエンテーション**
今回のワークショップの趣旨や、ワークショップの進め方などについて説明しました。
- ② **グループワーク：ラウンド1**
提示したテーマについて、グループメンバーと語りあっていただきました。語りあった内容は各テーブルの模造紙に記入していただきました。
- ③ **グループワーク：ラウンド2**
各グループのメンバーを入れ替え、同様のテーマで語りあっていただきました。別グループの意見も取り入れながら、アイデアを深めていただきました。
- ④ **グループワーク：ラウンド3**
もとのグループにもどり、他のグループのアイデアも取り入れながら、「はしもとミライ提案シート」を作成していただきました。
- ⑤ **プレゼンテーション**
各グループから、3つの視点それぞれについて、大切だと思ったことや面白いと思ったことなどを発表していただきました。



ワークショップで使用した「はしもとミライ提案シート」

4. 高校生が提案する「ミライのはしもと」

どのような働き方ができるまちになってほしいか？

ワーク・ライフ・バランスの充実した働き方ができるまち

- 定時に退社できるように働きたい。そのために、企業への支援などを市にしてほしい
- プライベートを楽しめる・充実させられる働き方が必要
- ワーク・ライフ・バランスが保証された働き方
- フレックスタイム制が導入された会社で働きたい
- 先生が定時に帰れるようにしてあげたい
- 公務員もホワイトに働く、残業を減らす

働きやすい環境がある・新しい働き方ができるまち

- 休憩時間などに、いっぱいリラックスできるように、市内に居心地の良いカフェやレストランを増やす
- 会社の中にジムやコンビニ、銭湯など施設が整っている会社を増やしてほしい
- 田舎×会社→リラックスできる場所で仕事ができる
- きれいな場所で働きたい
- 自由に働ける、リモートワーク、テレワークなど

子育てと仕事が両立できる・自分らしく働くことができるまち

- 子どもがいる人も働きやすいよう、育休・産休がとりやすい
- 育休を取りやすい環境→女性でも仕事に復帰できる
- 職業体験、企業訪問を増やす
- 定年後も働ける、働きやすい場をつくる
- 自分の得意なことを活かせる

新しいことへのチャレンジを支えてくれるまち

- 自営業推進！地域で補助
- 起業がしやすい→一部負担するなど
- 企業やお店を出したい人への補助をしっかりとる

その他のご意見

- 有名企業と地元企業の協力、大手企業の本社を置いてほしい
- 農家の人と頑張る
- 賃金を上げる、残業代を出す
- 医療費・授業料の無償化

未来の子どもたちが、どんなことを学べる・体験できるまちになってほしいか？

将来に役立つ様々な体験や勉強ができるまち

- プログラミングの体験・教育
- 様々な職業体験（人気だった職に関する企業を市に呼び込む）
- 海外交流、異文化交流（小学生のころから）
- 英語など最先端のものが学べる
- SDGsについて学べる施設、英語・仕事体験ができる（キッザニアなど）のような施設が増えてほしい
- 農業体験ができる→田舎でしかできない
- 自然体験（公園整備、キャンプ場！（アウトドアブームにあやかって））
- スポーツ教室の増加

落ち着いて学習ができるまち

- 空き家を利用した学習環境の整備（リノベーション）
- 自習室を駅前に（空き家をリノベーション、コンセントなどの設備の充実）
- 何歳からでも勉強できる環境整備
- 英語など最先端のものが学べる
- 図書館を大きく（カフェ近くに）

気兼ねなく遊べる場所がたくさんあるまち

- 遊び場を増やしてほしい（公園やその他施設）
- キレイでインパクトのある公園（小さい子供でも遊べるような）
- 安全な遊び場を増やす
- 子どもがのびのび走り回れる大きな公園（コンビニ、トイレが何個もある、大きな遊具、ボールを蹴っても大丈夫など）
- でっかい公園

生まれ育ったまちを深く知ることができるまち

- 地域の文化を学べる（だんじり）
- 今回のワークショップで話し合ったようなことを、学校の子たちと話し合う（未来の自分たちのまちをよりよくするために自分たちで考えよう！みたいな）
- どのような育児に対する政策を行っているのかなどをみなに知ってもらうために、学校や講義を設けてわかりやすく知ってもらう

その他のご意見

- 子どもが楽しめるものを増やす（イベント、習い事）
- 子育てのしやすい場所にする
- のびのび暮らせる→個性を尊重できる

橋本市のよさを多くの人に伝えるために、どうすればよいか？

まちの魅力をもっと見つけて、みがき、活用する

- 子育てしやすさや特産物（フルーツなど）をもっとアピール
- アウトドアに力を入れる（キャンプ場、アウトドアショップ）→夜空がきれい、空気がおいしい
- ネット販売を利用して、橋本市の有名な食べ物などを売る
- 地元ならではのおいしいごはん屋さんをもっとつくる（SNSなどで知っていっぱい人が来るかも！？）
- 自転車道路の周りに店を！→休憩スペース、ベンチ等

まちの魅力を伝えるキャラクター・人物が必要

- はしぼうが頑張る（キャラ付け・表現豊かに・愛嬌！）、はしぼう＝柿以外のイメージが欲しい
- 有名人に協力してもらおう（テレビやSNS）
- インフルエンサーがいたらいいな
- 市長のYouTube
- インパクト（はしぼうアニメ、市長が〇〇してみた）

ホームページやSNSなどをもっと活用する

- ホームページの改善（華やかにする、良さをわかりやすくする）
- SNSの活用（インスタ・YouTube等もやっているのに地元の人知らない！）
- 橋本市のPR動画をつくる

イベントをもっと開催する

- イベントを増やして橋本市に来てもらう
- 食フェス（農産物を利用したり...）を開く
- サマーボールを復活させる
- フォト選手権

電車や駅を活用する

- 電車の本数をもっと増やしてほしい。多くの人が橋本市に来やすくなる
- 橋本駅周辺で休める・楽しめるように設備を整える
- 電車の中の広告に橋本市をのせる

橋本市に暮らす人と協力する

- 「～な街」と誇れるように、まず今住んでいる人が橋本市を好きになれないと、周りに伝わらない
- 学校に子育てや橋本市の取り組みを教えるだけでなく、逆に学生の人たちにSNSの使い方や改善点や流行を聞いて実際に取り入れてみれば良いと思います（アンケートなど）

その他のご意見

- まずは宣伝に力を入れて橋本市を知ってもらうことが重要
- インスタに載せる内容を若者向けに！

ご参加いただき、ありがとうございました！



第2次橋本市長期総合計画策定にかかる
まちの未来を考える高校生ワークショップ 結果報告書

発行年月：令和4年10月 橋本市 総合政策部 政策企画課

〒648-8585 和歌山県橋本市東家一丁目1番1号

TEL：0736-33-1111 FAX：0736-33-1665